

御山
繪圖

日光山名跡誌

全



序

此山を地の子とて

山河のふたを佛陀

聖なるあまの神の授け

たつたなりけり

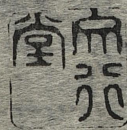
のきとて



老ふ秋はもて次臨と候ふ時
二世は勝縁を結んごうめなり
清き人なりふ成るる程
然るに雲霞前よりさば初
来りてや知るるもわづらふ
ふや秋のふも生をさるる

さむしきとてあつては舞海をさ
年次経る集る一冊なり
まをわたりて
貫つ有主人の言辭をそが
なるやうに執るやのあやまり
まをわたりて清くあはれ

享保十三戊申二月 鷹橋叔武藏之



○日光山名跡誌

折々野國都賀親日光正父王宮十代 橘徳天皇
 の法字神護葉雲元年勝道上人神開基を以て
 上人同國芳賀親室の八幡あり神誕生は父を
 帝仁帝才九の皇子卷向の者十有餘代の孫高
 氏高の宸廋とてり法海正二位左大臣右清麿
 の息女あり父母嘗て子如さす哉歌さ同國
 出流正千手大士不誦之新皇たもあま七日小満

たゞ夜八雲の蓮華のふと起り此中不惑をえ
纏め環のやうな物を思ふふと受へて身なり
懐妊一上人を生ず不則愛の音くおひ合ふ
稚名と名ふれと號め不惑ふ上人知立親史ふ
て弘教と名ふくぬと集め云云あつても堂塔
建ふのやうに成なんぬもあふ漸く長るそ殿の
親史にふりて極く親史の因ふ度く不思議乃
神告ありて日光山開創のふり成るを云ふ

廿七歳の少時同國米師の戒壇おきて具足戒と史
ぬひ史が程程と平素の志を要んそふふと
本宮に龍寺に建ふ海りそふ中禪寺
自余の舅は、成も遊愛あり程年ありて
慈覺大師おひぬひぬふ貴社と建ふふ
星霜八百余載のほえ和の成慈覺大師中興所
開ふくくかほきねくも

東照大権現あふふ所鎮座ありつたふと極致

此所あり
 少くも
 汲水に
 政中
 止む
 今
 所
 三

ありて寺下町飯東二十番の北をえり○
 幸町三丁東側中経小橋新町の横にありて町七丁
 其町中経小橋馬の交り石裂神本地蔵堂花井
 町り橋前のまもありて町○
 比町上中下三小別より下経石町東側は横町
 あり八女町との小見より橋前町へ至る比町小橋馬
 河段飯あり下経石中経小橋馬院宝花坊とて小
 寺ありて町小橋馬堂あり運慶の作下経飯東の

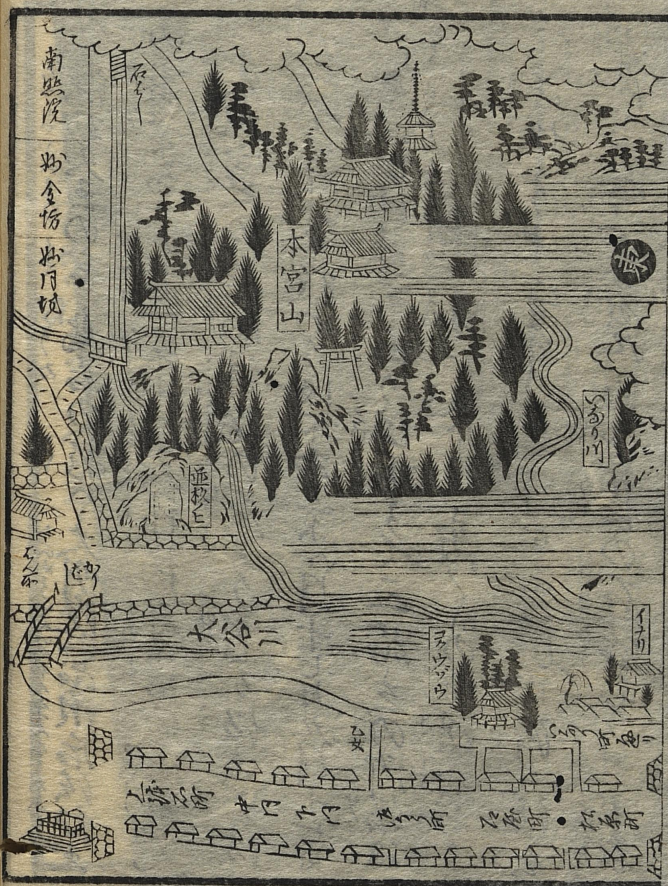
北をえり町向ふとありて経石山観音寺と云ふ
 寺岡山下下千多親善堂一室弘法大師の法作あり
 上経石町南面松橋折曲橋木阿さる不店あり
 右合松原町より南町出はすて凡町長十三町餘あり
 △下馬比所左の方石橋本をむり森の岡
 △星宮 洋殿あり本星宮天帝子秋庭空花芝蔭
 たり同宮の傍にふ南河山の山家入修の修助の
 の堂あり星宮の宮と云ふ毎年極月廿六日右の修助下

帷子一腰纏一夜少くも成勸行し明年の
二月下旬に帝は三月二日の朔出狩之天下安全
國々孝緒の新神他國々々安んずる荒行あり患
あふかへ同和ぬりとふ○慰月明神
○小宗石ありは雨より東の方にもある松山小倉山
を流るさそふとふ想下れば若うきむり方
おとぐく山を降くはるがなり

ありし橋長、空管の蛇橋と云開山橋乃と云橋
 空山の蛇橋と云開山橋乃と云橋
 ト青弁の二蛇を放と橋とほあふと人側あふ
 空管と蛇蛇みさひさりあふゆふ空管の蛇
 橋とふ中右より神橋と管橋乃乃折
 三通りあり目老ふ空乳の米と云箱の湯の
 乳の米、中、空、蛇、まへせり、は橋の橋、
 七社の明神を勧誘ある人老あふ澤の表、
 七社の明神を勧誘ある人老あふ澤の表、

渡さば橋かき之の時ハ神の法乐ハ祝成あり
 〇飯橋 欄干あり雄床のくさる是を渡り大谷川を
 川六中程の湖水の底に橋向に宿所あり同所
 左の方の坂六車山は農務場合への所而て坂なり
 〇碑あり是ハ所神領境より南東と新と海江
 並板松年石馬ノ大連法親王の碑あり同所の上
 〇石馬ノ石馬の社ありをせし神橋向ハ

深砂天王の宮 鳥居の影に 大明院一品次后法親王
 の宸筆あり 本地品沙門天祐橋身度の星神と
 東照宮の御能神橋の左より 壺子坂 浅草坂
 ところを丁半程あり 同前即上宗賢十七日九月十七日
 所参礼の御能神橋にあり 以而之三品三の御能神
 橋 冷人東橋の右と表し 満くの御能神橋あり
 長坂より 中心寺あり 寺に寺あり 以因降上院と云
 寺岡より 安達氏首九郎盛昌長の石塔あり



通り左の方新園の 新殿地なり右の方新本場
輪王寺の宮と申す所なり石原本を電りて

○石の島石は八雲田能前長政院前あり

鉦石を削り南海数百年成りて元和四年四月

新寄進あり新額 後水院震地あり右の方

○五宝の塔 是ハ酒井頼成が寄附なり

東の茶屋 西の池 北の観音 南の五宝中央大目

○新殿敷 是ハ新宮寺造替の時下遷り

ある所なり此より二六時の鐘と撞あり

霜月十八日の庭とあり毎年新陽と申す

庭の登るあり

○仁王御門 前には門前石原本殿石院院裏

若狭園司酒井頼成が所勝頼氏に奉納し右の方

○新番新あり此よりかづり物と地物とを

て諸を左に石垣の内小笠原之間の太石あり

あはれ丸石の礎石なり

仁王御門 左右阿字仁王長一丈二尺余表の方ハ
 唐獅子ありは法つを入る左に金龍院石焼院
 ありある諸大菩薩より法を納くまふ左の方
 〇清苑 三つに法よ 〇清廟あり左の方 〇横一様
 〇清殿 素木造之清神馬三才ありある下
 〇清池 清苑の法時に至る事 〇清苗所
 〇清水池 法水水池をみるに石垣あり建り
 天井の彫刻は浪は龍龍あり水池を法を祀前

佐賀の城主鍋崎伝法を祀前より石垣置びて
 法を納く事清の男女を法に納ぐある事あり
 〇唐洞清華表 同左の方 〇一切経堂傳大士の像
 あり伝法を祀するに石を祀するを祀する
 〇鐘樓鼓樓 同左の方 〇朝鮮より献する物
 金燭臺あり其阿茶池より献する物金燭臺
 もあり同左の方 〇朝鮮より献する物鐘あり
 法を祀するに法に月三々目法親式の時に法を祀

琉球より上二十六社の燈臺ありいさふ法大良
清奉納の寺燈籠数多あり同所西の方

○清奉地臺 清奉寺の東師也東之宮園東

修の東師也摸一ニ葉落十二神を安座に

は清堂大伽藍ありむむ花やつあり極金剛堂

長押の地帳ふむむすといつても金銀を渡ぬ

たり極寶殿の天井あり八間一熾りくち龍乃

繪あり物種永生安座の事もあり

△陽明門 延武寺はありて力をぬきそ清門内へあり

以清門にお母をれくも 禁裏の陽明門を換へく

建り表あり疎牙あり俗より文天長と云つても

極彩庭あり敷をせうゆいふのくればどく

ある鄙人物語問ひもきくともいふてああね

りよとて不審しけりも理りて雲の風神愛神

とまり清門の所影に 後陽殿院ありあき勢

如ひての震耀あり俗より新殿門とも云熱く

比新門の儀様台燭み及びびくく等跡も甚し
 かう那物ありくかどえんる琴茶書画周公旦
 鉄楊貴長房。盧敬琴等阮籍愁康豊干王子猷
 孔子歌四をほりあそ外三笑安六詩九哲く
 むらうもて悲く地ふ等も及びを板敷の虎豹
 龍龍麟獅子摸いづも角木の端不利めり
 あひいそのまふあうるあも何り鳥の鳳凰孔雀
 そ外名も及びる座を笑く我國の會歌と

不ふ及びびいづも極彩色ありき不職金の
 か子地をまねく松ひ徳と不光りかゑきえ歌歌
 目ふつめね風情あり中の毎りの矢井の龍虎
 待時探遠お伝等あり此の間の矢井の矢女を魚
 了衣衣新回廊折也一両間金ありほつもの
 乐天が友子歌がば君と極一の文を好の本
 あどおとくくかぞへく新門を入て庭よく
 鋪々も衆ふに鋪門又鬼奴川共より石見しあり

おねどくおのりふ

○律典堂 ちまの二季の所業礼の時討て

出所あも也因くおのりふ

○神樂堂 曾八公女出仕神楽奉儀月どく重

○護摩堂 全書大書明王十二天と安堂辰辰

おのりふ九月十日より十七日まで天下安全乃

所新補護二を修せり

○所唐門 素本造り法經より神り神接修

の彫物かち地を著一向の破凡い許由業父らひ

七賢七福神木の彫物あり天井の天女の彫物

いし門の残らば唐木城以て書あり想とては木

彫物あり町寧あふりいし一枚の板とそのま

鑑るものあり何れとゆやうあるあも亦の木と

習ひて接飾りともおもふ一鑑は細工の好

神入るものし所経根のうま唐銅あり想とて

ひしと唐銅より所門の左衣

○河瑞籙・は水物千条万本花にありて

みくもろくの庭多良木の間ふらび鳴る風情

愁慮うきもの一山深み粧りて是みゆり

○河洋殿 勢は二重よかきより余滴の男婦

是より拜しきふあり河洋殿の間をたよ

河着座の間ありは水簾ふ二十六秋仙を撰る

後水尾院の宸翰あり陰に依る由は此の

筆に 河着座の間ありともみ美明乃名本

香樹紙集めき造りては偶に字あふみの

條ごふふ衣あつたうき芳く椒葉をかた

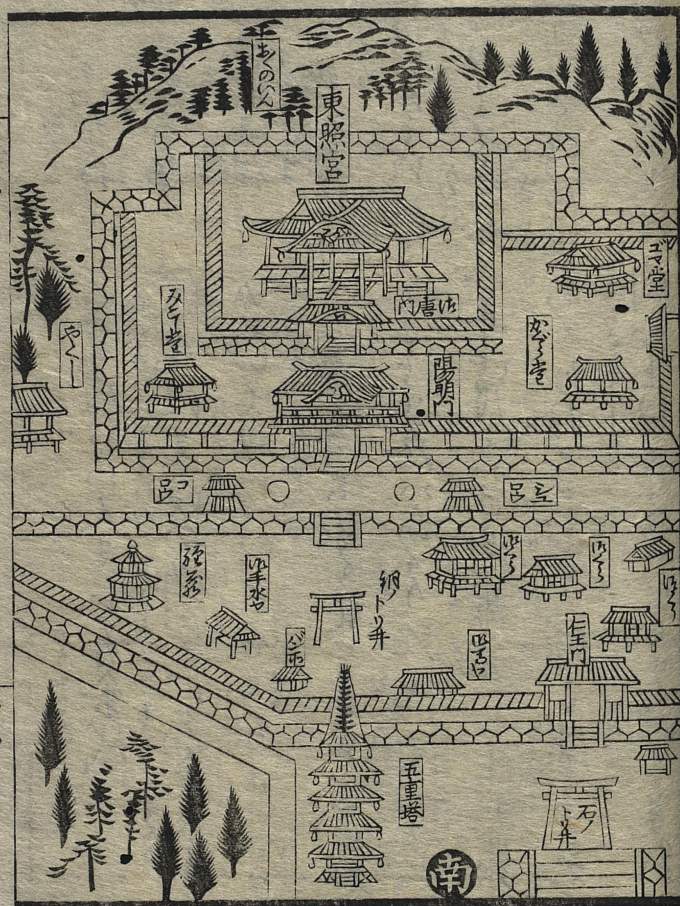
してその匂ひ数日陰とけふは庭ま高木の

羽毛の敷令玉を丸め服の間ふへるうきやう

あふて庭の閑閑の夜とあるその服とけりて

花翔んとするの勢ひあり熱くせば 河美の

格天井の
御繪筆
狩野探幽
同 永真
同 主馬
同 洞雲
同 守景
御移戸ハ
探出筆
ナリ



御幣殿
御繪ハ鳳
鳳
永真筆
云ナリ

△ひんや 御本社 そめどうをんやう あんやう せうよふの 祈堂御社の人主百有金代
後陽成院 ごうやうぜいのん 後水尾院 ごみづおのりんの 御宇にあり天の
武將不備ふせありて咄握の常武解ありて
の傳ハ龜井和言藤原のそてしまでめど
法華と作さるる事ありて記法活世久
教く元和二年四月十七日御壽筭七十五歳
みそ法地界ありかねて無暇大師と縁く免
法誓約ありて山王神を成りておたり事
十四

△あんとさ 御本社 あんとさ 祈堂御社の人主百有金代
後陽成院 ごうやうぜいのん 後水尾院 ごみづおのりんの 御宇にあり天の
武將不備ふせありて咄握の常武解ありて
の傳ハ龜井和言藤原のそてしまでめど
法華と作さるる事ありて記法活世久
教く元和二年四月十七日御壽筭七十五歳
みそ法地界ありかねて無暇大師と縁く免
法誓約ありて山王神を成りておたり事
十五

△相輪標・新の傳教大師六十箇句の法教を
 記して敷山は始り目六本又建たれり
 是中舎の法あり切値を要あり
 慈眼大師高山の建たれり
 人倫のふり及び是の教を
 法と関付は親しく一見法縁のあり
 ては是の罪と減し未だ永く二思及と
 せんやとあり小銀ひあり
 次は法縁妙なり

有ありゆゑとあり一記し

△新宮の鳥居所敷正位親一等日光大授現
 とあり一品宮公寛親王法震輪あり

△三佛堂 高山の大伽藍あり
 九尺五寸千手多羅菩薩あり八尺五寸慈光大師の

ありあり日光二社大権現の法地寺堂乃
 周乾の隅子勝なり人の法教あり其の隅
 軍太利明王の像あり其堂の隅永け

軍太利明王の像あり其堂の隅永け

略之そよりて子孫有り

○常行堂 本堂の寶冠の鉢陀堂の寶冠の

摩多羅神と云ふは頼朝公の骨納りなる

とて信ふ頼朝公とのふれはる人王み十九代

宇多天皇の所宇多天皇の年より創あり

あり指成折ふ八百六十有年及なり蓋て

○法華堂 本堂の寶冠の鉢陀堂の寶冠の

創三十番神傳教大師の法華堂の始りハ

人王み十三代淳和天皇の所宇多天皇の

より法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

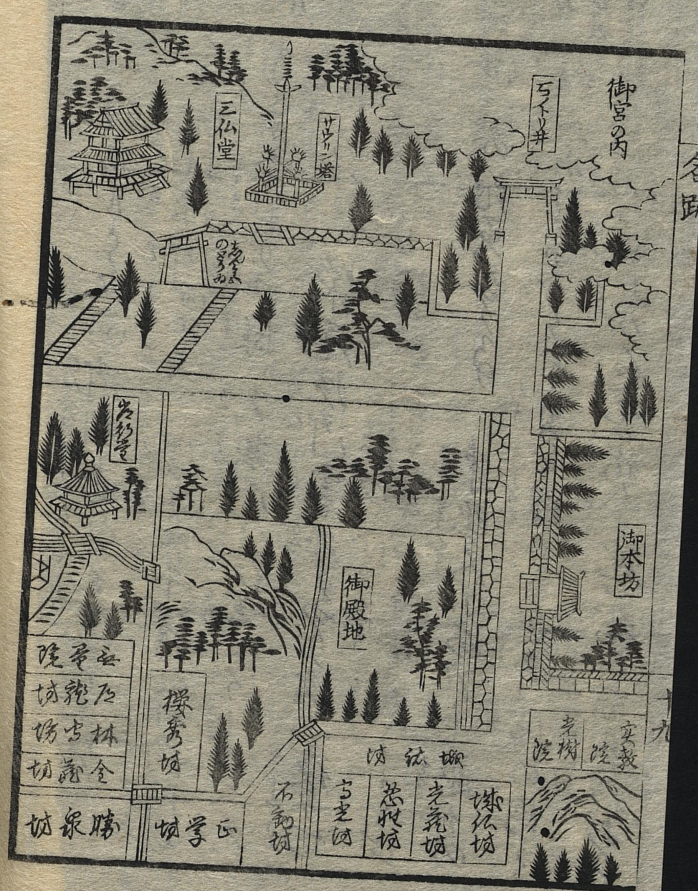
あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ

あり法華堂の傳教大師の法華堂の始りハ



中より勝道上人 檀越の御所の御所の社
 小繪畫の御神 新の社 御所の御所の社
 毎年三月二日祭礼あり 二月廿六日より祭礼あり
 三社の神輿を飾り 重供奉の氏子ハ技藝を
 前日より替なり 正月にあり 祝ひ舞小業
 氏子にて新穀の毛やう小取作も無ありて
 神輿をいさる 御所の神輿ハ本より新穀ありて

三社堂の御所 延年の御所といふ御所あり 一山
 の院中に出御あり 御所を出たの御所 ○金剛堂
 ○慈覺堂 素木造あり 本より慈覺大師の
 御所 小二十番神不動を安置あり ○御所あり
 ○新宮末社 ○十子子 ○毘沙門 御所の御所 ○山王社
 ○阿弥陀堂 御所の御所の ○三尊石 御所の御所あり

○大黒文堂・寶雲の御
 〇十思堂
 〇地藏石
 右の方瀬の尾乃合新より瀬尾を十二丁
 余あり小坂をむり中ほどふ
 ○茶師堂
 此より又水谷をこき成瀬で目と
 〇新者堂
 坂のとほりふあり本堂坂乃新者あり
 前小道公寮あり
 ○津藩あり坂をり村あり

○石橋あり
 〇山王社
 〇不動堂
 〇龍尾との
 赤念大明神の石社あり

あり○熊野校とて著候處の場あり候上と
 〇新別所 け所あり日光責とて食物を食む
 者ありとて食物を食むとて食物を食む
 振持ふとの責道具ありとて食物を食む
 人とせ候ふとて食物を食むとて食物を食む
 〇新場中町方ありとて食物を食む
 〇新宮 新靈屋 新代糸の大倉元大せりの

毎年正月元
 日の夜社司
 登りて鎮
 火祭の神
 あり候と
 事とて往
 事との故
 ありの神祭

〇新宮 新靈屋 新代糸の大倉元大せりの
 〇新場中町方ありとて食物を食む
 〇新別所 け所あり日光責とて食物を食む
 〇熊野校とて著候處の場あり候上と
 〇新宮 新靈屋 新代糸の大倉元大せりの

○根本社 小社之北より西の三つの石の間に

○子後石 前より右あり石形をいへる石所

かき流利生はるこいそより

○東の清酒池

池徑七六ほどありひういふ

出氏中ふある石社の毎方五あり

○三本松

本社の後より二社の社木を何もふ

○三十番神堂

鎮座第六十六部納経乃

所あり是より下向をたのか

古木を枝より木の根とちひし

ゆきえ ○枳所門よりふ本の

御神馬碑 是所社の馬あり

年法民関を東河陣の

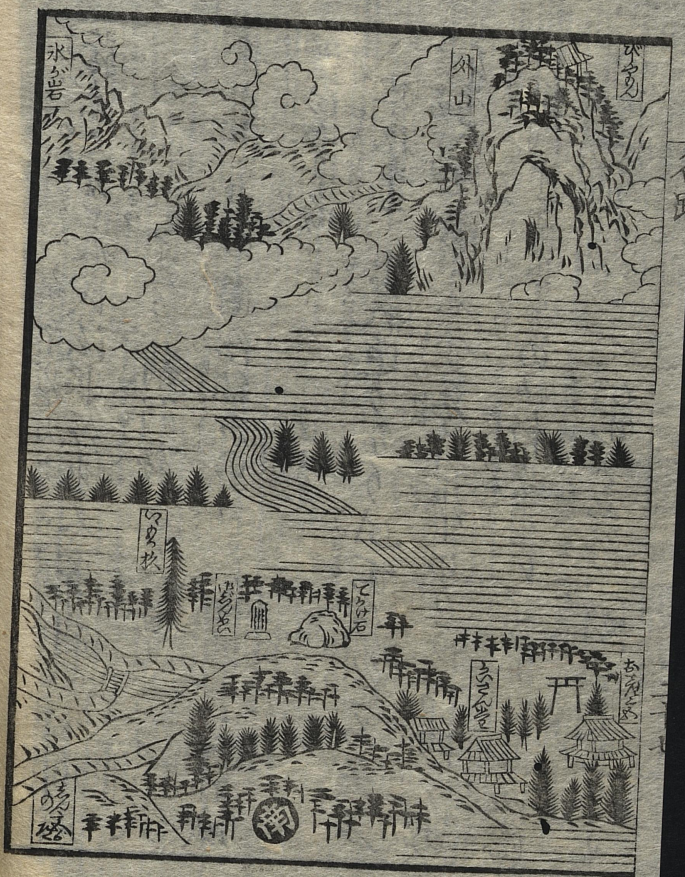
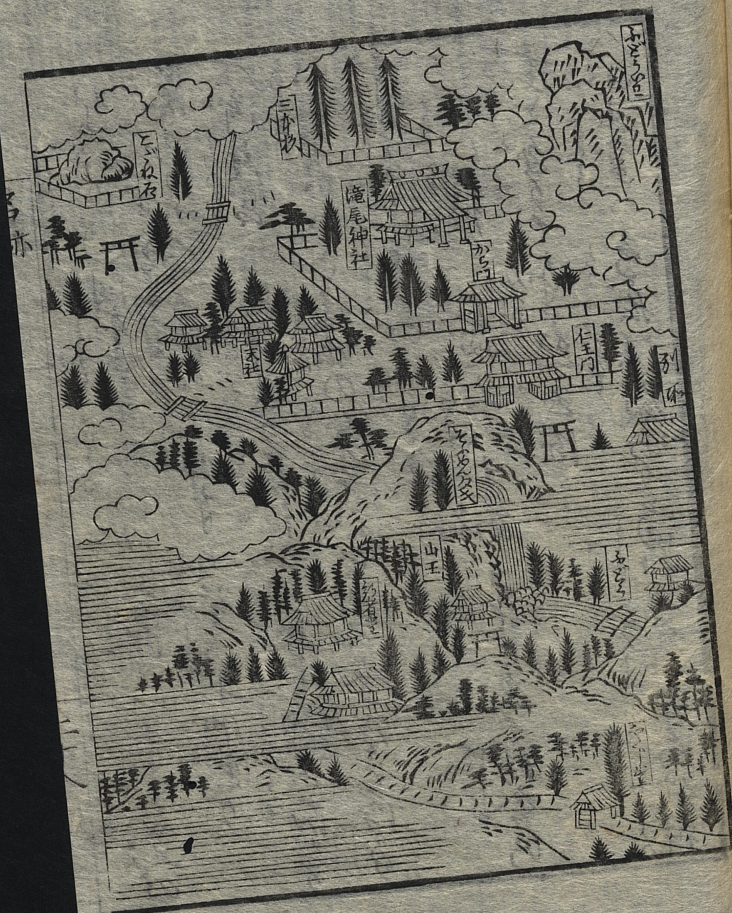
ありしあり碑の橋の

○手掛石 石をむし

是 松左の旁へ橋前

二月廿五日

の再誕あるべしといふ事なれば



いなり ○同不裏上之の法藝所は才子美人の
藝ありとの法骨の中禪寺上野橋本納あり
△河津宮 向洋通りあたりに本地普賢菩薩あり
は本まいいゝ猿胎の女立釈とて平安産と云ふ
斎炊あり同所のいなり
○白山権現 本地大形十一面 かくとて不坊舎の
前とありて本より出所

△小玉堂 当座洋殿あり当社の天神星の化神

あり本地合輪比社のいなり秘事たゞて歌
だし是より一丁程ゆゑ本家の境内に入る橋と

いなり素木通りのの堂あり

△四本龍寺 宝祓通り本寺より千子親善寺
又大寺橋とて安産とて白山関山のこれより人伝

ありいなりあり

○三定塔 本寺親善 又殊普賢と

○御本社 前々拜殿あり本宮大権現の

風千八
新宮
龍尾
寂光
右何毛同
日

味難高廣振替本地馬改觀者なり大同二戊子年
 傍たけ下ゝ高橋あり南社字於大明神に一神
 あり別字於大明神の家も目覚心慈院太真大明神
 江原うてあつる高橋神はあつて武運長久らたれ
 法身神あり神座高太あり事申くはる神座
 小書ちふえん悲あまは記とあらば元わ社の大社
 あり神室ハ例年七月七日風千八の神座除あつた
 姫の蓮花あめて織世切枝冊珊瑚珠あとの外

あゝあまはり来社ハ○新付天雲 五十又高き
 ○康清社お地十面 ○本地雲高観音 ○山王天 ○柳阿社
 ○持焼燈正和 屏の不知大目来祇 ○多病 ○二十番神
 堂より ○別所はあま目老堂のたをわけあなり
 別所内相ふかけ一画十面観音と表あはれ観音の
 号神あり熱が何れの別所あま長床の間とあへ
 秘密護一修の間の間ありそ高の持焼佛神と表
 て建あり故に様は石神の者あまのからた

その爲にありはたし口

三十一

その爲にありはたし口

三十一

その爲にありはたし口

三十一

○御火番
八季千人頭
御入同心衆
五十人

○本堂座像の秘一 文殊 普賢 恵心の三尊あり
慈眼大匠の法教あり 大猷院様殉死の
諸士位牌あり 堂の内に殉死の石碑と云り 堂あり
たは石の念仏と云う 堂あり
○愛宕山大持現 尊厳金剛 此の山を以て所居と
云ふ
○八幡社 西國の鑑あり 又 六地蔵堂 此の
うしろを毎う 寂光寺と云ふ 祇園より 寂光寺と云ふ
町余あり 此の人の根小 延命地蔵堂より 七八町

○池石は石の上より水湧く 有るなり 此の
又 俗に云ふ 昔いづこより 此の山より 出づるの
跡の痕あり 此の山より 下へ降りて 寂光寺の傍へ 入る
二山あり 高き一の大木あり 大いなる木と云ふ 此の
木を 撫むと 云の木の 木に 射せり 此の木の 茶
店あり 此の木の 木に 射せり 此の木の 茶
○念仏堂 此の山の 山に あり 此の山の 山に あり
此の山の 山に あり 此の山の 山に あり 此の山の 山に あり

礼部納むる也又此所納ありこれより
 名所不怠の念弘く其同所奉のうらふ
 釘を弘の大祖是源上人の法教あり是源上人
 關より法來せし是源の平文也といふ
 此所の源記あり此堂の南に涌り小寺此所にあり
 ○求圓持堂 本堂の虚空花并慈覺の法也あり
 家一品法后法親王展轉しててやうなる所あり
 て向ふの方へ ○三十番神堂 中へすにありて

○不動堂 三尊赤金の像ありて ○淨教
 所奉社 寂光寺持現八下照那命本地無別天
 あり南に弘仁十庚子年弘法大師の開基あり
 法寶物十二のものを和向身の鏡その外教あり
 なるこふ所ありその源よりつふをく指成
 する所へてしたる教尋の布紋晒がぶと
 腕の南にありてこの所は嚴密の左のかつてあり
 石で此処の四字を宣海を志をあらはせ地より

上宗 ○二宗山 ○大東山奥子入て ○富吉子あり
 けいより富士の字根より 於ゆけき ○川俣の
 温泉あり 女人の入湯あり 河津社より
 あり ○別所あり 周小毎才天十々童み成
 安藤にけ寺の良の字 ○羽黒山とて小籠とて西
 あれより 河津より 東町より 本町又工町とて 東の町に
 △養生院 寺に 一山の墓あり 樓門の彩は法大所
 の寺とて 妙見とあり け寺の宝物あり 河津とて

○阿弥陀堂 本多三郎の浮陀春日の傳ありこれ
 より大谷川の橋とて 三郎の河津とてあり
 △慈雲寺 神橋より 法十二町とあり
 本多の河津池より 東町より 河津池あり
 釈迦あり 寺の前より 大谷川より 河津池あり
 △護国堂 け不舎漢が剛たり 河津の字あり
 不動の石佛あり 河津の字あり 河津の字あり
 河津の字あり 河津の字あり 河津の字あり

山麓小 ○ 石神の地蔵を敷き置けし所の川端
 ○ 吳庭閣 け閣より眺むる所の松系又ある
 庭より大眼を引とせを院義溪の水首を引
 ら努む番橋家の雪異域の材料坐せり
 若小得るより其向ふの雪山い ○ 赤柳を其外
 うふひんぐを引し閣の要ふ
 ○ 骨堂 大なる岩を切ぬけりけし庭の
 骨堂納むそのより種ひ子の書る碑あり例は

石の大地蔵あり 石像を其後より大なる淵あり
 其もの門を入りしより其の所はと皆むの
 境内よりあるの者あり 石のありこれと略は
 其のありかきりしより板を枕を名考ふ出
 くる城求て供養をあるよりまき川濱頂より云
 け所を園東のより好しとて大御ふ紀政を種ふ
 の患隠ありあきりきりしより其のありけし
 ○ 赤新院ありまき ○ 平石より十六大を其の



石ありこれより後、
△二のまふ山 本地茶所 如來金剛帝子の雲あり
おれどはらさ ○金剛山 けしき 北嶺の南へ入峰
山伏の衆あり 秘密の経の巻あり けしき
人あり けしき けしき けしき けしき けしき
○おまふ山 けしき けしき けしき けしき けしき
みふく けしき けしき けしき けしき けしき
けしき けしき けしき けしき けしき けしき

△中禪寺への道筋

但神橋より中禪寺迄三里

原町ふり田舟沢の橋をくぐりて川向い
○蓮花石町 坂とむき ○地蔵堂あり 町の中
ほむら ○蓮花石あり けしき けしき けしき
毎らせのふり けしき けしき けしき けしき けしき
名付く けしき けしき けしき けしき けしき
△十八王子 けしき けしき けしき けしき けしき
方ふ久二良村と云あり けしき けしき けしき けしき けしき

御宮
社家衆
六人各諸
大夫也

此村小へ菜師堂 本堂菜師二并 十二神十
王奉衣婆も神のつやあり又花石所より
二町余のくたの蔵へ△大日堂 本堂石神の
大目へ 千神佛と要重に同布 地蔵堂あり
け不の地形鬼の伏が 乾小石と向水清く
菜師より 菜師の地あり 偏け不ふまを
ふり巻く一の道へ 又大日堂の別をこより

なつた法二十町行

△裏見子跪

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

又湯殿之めりはあり

○砂子沢橋ありむろり ○青れ子の足痕
 ある石のり足ありふ ○鞍掛山 ○煩悩あり砂子
 澤ありむろり ○青丹系地蔵堂ありそれより清龍村
 △清龍寺 山号清龍山と云 本堂より安の地蔵あり
 聖徳太子不動ありけ青の妙通院通帯も
 かまのふ小幡屋の僧けりあて城ありあつ川
 ○清龍寺 け法祥の天竺勢の法心と云
 針とあが弘法権後の法祥あり正月三日

の洞瀬戸修りありけまのうろろ巖屋戸と
 云ふと云ふ 滝あり ○清龍寺と云ふ人里ふふ
 ○観音堂 本堂より観音あり勝上と云
 中禪寺 立木の観音のうろろと云ふて彫刻
 あり法長七天よりあり中禪寺の女人禁制あり
 是は法長より前立を志男と云ふ小庵と云ふ
 法長と云ふあり坂東十八番の札を納是堂の
 左のうろろの○是尾村と云ふ洞ふあり

庵ありまねり五里ありあり是庵とあり上列へ
 行形りて親堂より太のこた二丁はひて
 ○水汲打堂とて板とをり石社ありとて牛
 主坂とてより寺ありとて
 △馬返打ありより牛を入るありとてあり
 女人もこれより禁あり是より目光より二里
 あり河系とて○深茶屋あり板は地蔵堂
 ありまねりて

近年地蔵
 堂不動
 堂之問
 茶屋補
 理茶諸
 人之助

○不動雲 石折ありとてよりとれまねり
 秘所の板は是より大平とて八丁後ありとて湖水あり
 ○大蔵とてあり○神石とてありとてあり
 ○牛石ありとてありとてありとてありとてあり
 ○楊門 此よりありとてありとてありとてあり
 よりありとてありとてありとてありとてあり
 △中禪寺別所 補陀落山中禪寺とありとてあり
 ありとてありとてありとてありとてあり

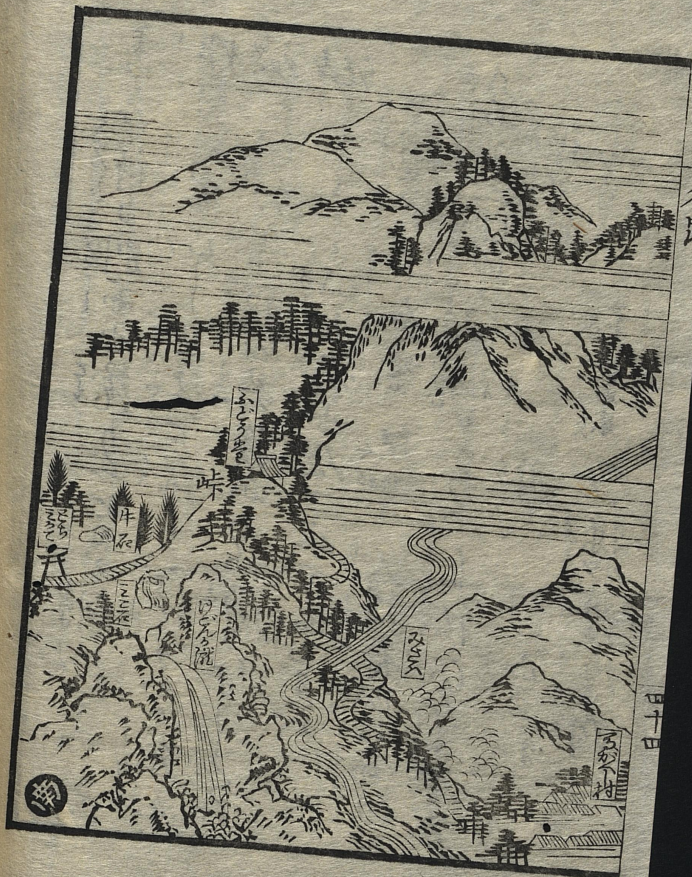
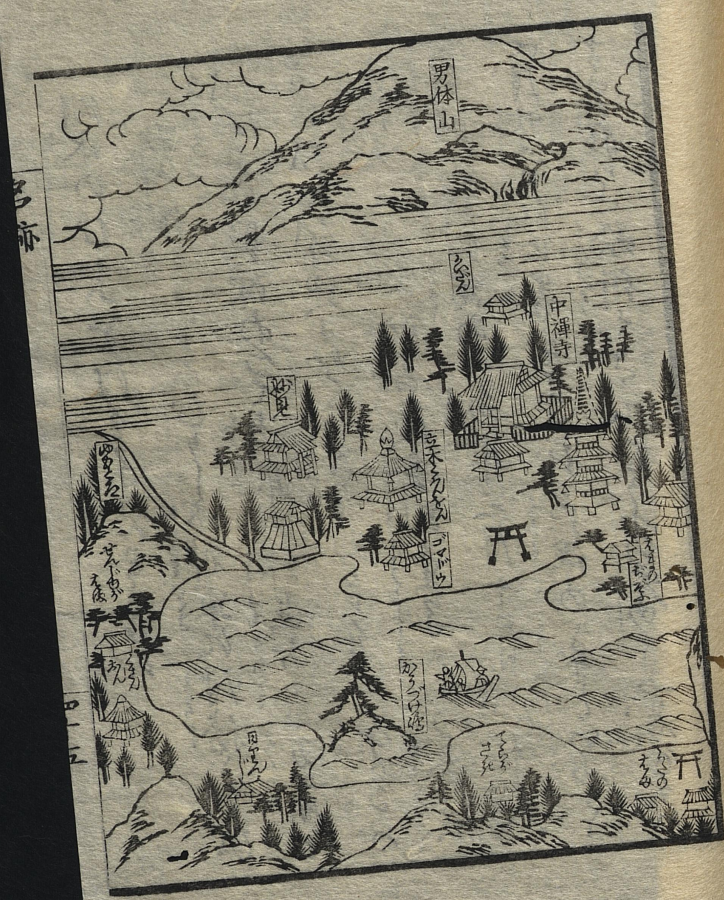
家胡いほくえん異域もなびわうるべし
 作者より地より刻て六仙塔ふんとて
 身拜する人ありふとてさきありき汚濁の
 へ伝を軒ふ落せざる事なりその具好あり
 と傳ふんといふに云々案なく記するに筆の立
 不きううするふい湖水も二重幅二重あり
 秘より四面より森林脩竹あり湖上は蓋ふや
 といふも生葉いふも水面より浮き底まで

深けきい魚ひくも伝は傳ふは前ふとて
 熱いといふ内は太湖ありその外は小池あり
 小池十八湖ありかゝる山の頂より湖ありと
 奇代の異山ありき湖の岸より○深の地を
 ありそ色より木の太き木と入るな○後樓
 ○不勤堂 草堂ふたつ
 ○妙見社 又ままのまも
 前より希殿あり草地純樹葉落あり
 ○立木観音堂 本堂より観音あり玉堂あり

四天王の像あり 勝座上人を其の像に彫刻し
 あり 像の東十番のれあり 糸指の蘭帳
 代形ふより 列下の出のいひ 便して 開帳する
 元化國小例より 異像あり 又其の像は法
 の代又勝座上人の歩新あり
 ○ 浄本社 前に 洋殿あり 南社大後現 日光
 三社の本社あり 本地 淨陀千手 及び 延暦寺中
 の諸道場あり 神靈は 獲慈地經一卷 金字の

本文ノ説
 甚倍ナリ
 トイハレ往
 古ヨリ言傳
 墓目ノ法
 當山ノ故
 事ナリ

法華經一部 八葉の後一面 氷牛の香爐 象牙の
 算策一管 海龍王の赤衣一領 若菜畏三花の葉
 蓮子の珠數 勝座上人誕生の附文より 降生
 湯杖のいれあり 毎年二月七日武射の祭
 ことあり 社司をいして 上列赤帳の音ふむひて
 矢を放つ 赤帳の南社の神歌をうとふ 矢則
 赤城明神の龍に立氏ふたけ 日矢ねきの 儀と云と
 祝詞の矢と被との ことあり 赤城乃



歌
濱

ちんぐいさ
 ちんぐち

○ 帝 命 遣 使 召 諸 將 討 虜

付可まは
 凱陳あつて
 法華の市
 建ち立つて
 今も
 かく
 ちやうちよう
 せんが
 だ

うゑひ
みい
ふふ
ふふ
あつ
ふふ
んが

三
 年
 大
 小
 不
 定
 本
 多
 小

菩薩金剛童子未あり又此

の入帳 正伏の宿り 毎年三月十三日

月映之川
山影入水

老翁云
子云々
三〇

花傍の峯とあり

此の形を鑑行もさむ子の家へありて

○ 壽 齋

茶所賞

○ 同 陽

大正九年

しやうしやう　あへ
 傍のの影あり○
 上野橋　湖中のの
 えんち　あま　あさ
 月あり

よる
母とあり
傍の
骨け
は
な
る

ガンド

○ 龍虎石

○ 億石

規字石
其石
千手分演
銀多雲
供祈あり奉爲

其下より
 千手観音菩薩の法化の
 〇 毎年六月

七日の祈雪、演舞、（うまい）踊り

有まて何二
おが
心定

小繁のそと

新機なり此時に右の別所へ一疾流り懸け取
 参り午の刻より六時迄 演進の風景まこと
 あらゆることありて候なり右の漢書不
 ○風風水 ○紅雲の浦 ○左の流 ○大崎
 ○大尾 ○宇津湊 ○菖蒲の沼 ○獅子ヶ淵
 ○金が丘 ○此の所より右の漢書不
 参り午の刻より六時迄 演進の風景まこと
 此の所より右の漢書不
 ○茶屋あり候なり

此の所より右の漢書不
 参り午の刻より六時迄 演進の風景まこと
 此の所より右の漢書不
 ○茶屋あり候なり

交して時々々ぬまふあふをせり

又家人もまた山里のさう氣分のちるを故ぞ嘆は

と仔細のさうもあつて出るもさうしては

○湯殿とふとあつてさういふ近づく洗乃

御をあらうて○湯之石湯家ハ新あり

二月中旬より九月のほまで高店おろり

ものごとくはあり湯の名ハ

○新湯 〇洗湯 〇焼湯

〇自在湯 〇中湯 〇茶所湯

〇河東湯 〇湯坪十あり

衣の湯のさうも積と黄痘を忘る自余の病

ハ何れも奇妙あり湯坪さうもあふ

あり湯依の年毎あふ群集せり

〇大真子 〇小真子 〇新山

〇大玉山 〇雲山 〇茶之荒山

〇常磐嶽 〇鈴ヶ嶽 〇温泉嶽

〇三ツ山 〇赤倉山

○女峰山

○太郎嶽

○月山

○白根山

○湯殿山

男衆心のわのこ

後ふあり

出羽の玉

湯殿山とつせ

夏湯殿山とつせ

とつせ

とつせ

はなまゝ

妻ふ

湯殿山の

を

○華嚴院

足中

成路

尾神子石の

より

ふ

下

流あり

身

の

を

曝

ぬき

銀漢より

酒

と

銀河倒掛

三石梁

香

盧瀑布

遙相望

と化

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

右日光岩地淨刹くろく洋くどろろくわ
四六日も運留せられ巡り廻りか

○日光名物

- ▲蕨菜 あひのしんそう
- ▲三光香 さんこうそう
- ▲たろ たろ
- ▲こ波香 こはかう
- ▲かけ花 かけはな
- ▲紫氣 むらさき
- ▲紫氣 むらさき
- ▲いもれ いもれ
- ▲やまへ やまへ
- ▲山椒魚 さんせうういそ
- ▲山椒皮 さんせうかわ
- ▲この子 このこ
- ▲年魚 としうい
- ▲大根 だいこん
- ▲山椒 さんせう
- ▲銀杏 ぎんぎょ

▲里芋 さと芋

▲蕨 わらび

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲あけび

▲せう波 せうは

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲あけび

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲山椒 さんせう

▲夏枯草	▲獨活	▲羌活	▲葛根	▲通草
▲薄荷	▲黃連	▲枳實	▲枳殼	▲車前子
▲木通	▲忍冬	▲石斛	▲白朮	▲草薢
▲茯苓	▲山藥	▲百合	▲山慈姑	▲山香子
▲雲母	▲菱粉	▲曲物	▲挽物	▲人參

此外藥品數種ありとてども畧之

堀石
川柳桃
奇柳

▲諸方道法附
但目光神機より

○新宮(七丁) 滝尾(十六丁半) 清瀧(一里)

○新宮(十丁) 新宮(一里) 裏見瀧(一里半)

○新宮(十三丁) 合後(十三丁) 中禪寺(三里)

○寄降院、一里半 林檎ひじのこ酒をふふり

○かけ橋、地蔵、十三余 どれい小倉山のひざり菊あり

○湯殿山、二里半 ○中禪寺湯、六里 ○川俣湯、八里半

○足尾、六里 足尾を海より上及妙義山伊香保藩邸

ゆきあり日光より妙義山まで二十七里余

○今市、二里 比叟氏太のうと森の酒中を城山麓あり

△今市より ○宇都宮、七里 ○鹿沼、五里

○大田原、十里半 比叟氏太のうと森の酒中を城山麓あり

△宇都宮通 今市町合ひひ

日光が今市、二里

今市が 大沢、二里

大沢が 上野原、二里

中野が 二里

下流が 二里半

日光が 二里半

日光が 二里半

△鹿沼通 今市町と

今市が 板橋、二里

今市が 大沢、二里

大沢が 上野原、二里

中野が 二里

下流が 二里半

日光が 二里半

日光が 二里半

大谷よりうつろひの途三里あり
 上郷よりうつろひの途二里あり
 宇都宮よりうつろひの途二里あり
 ・大田系一十里あり
 ・津久井一十里あり
 ・鎌倉系一十里あり
 ・石橋系一十里あり
 ・小令井系一十里あり
 ・新田系一十里あり
 ・日光系一十里あり

麻沼より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり
 大田系より十丁余あり

△奥羽海道

大田系より

今市より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里

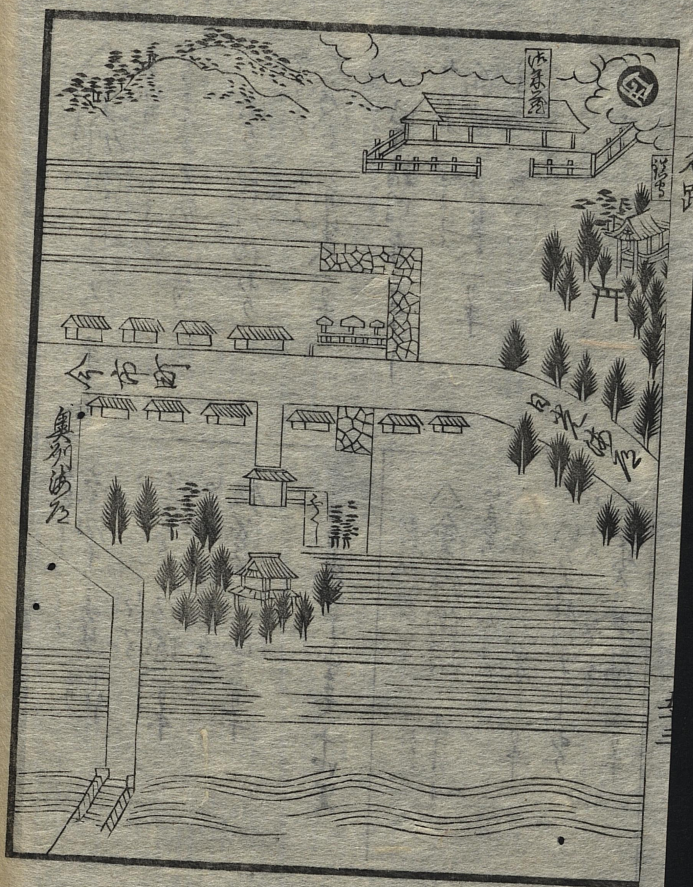
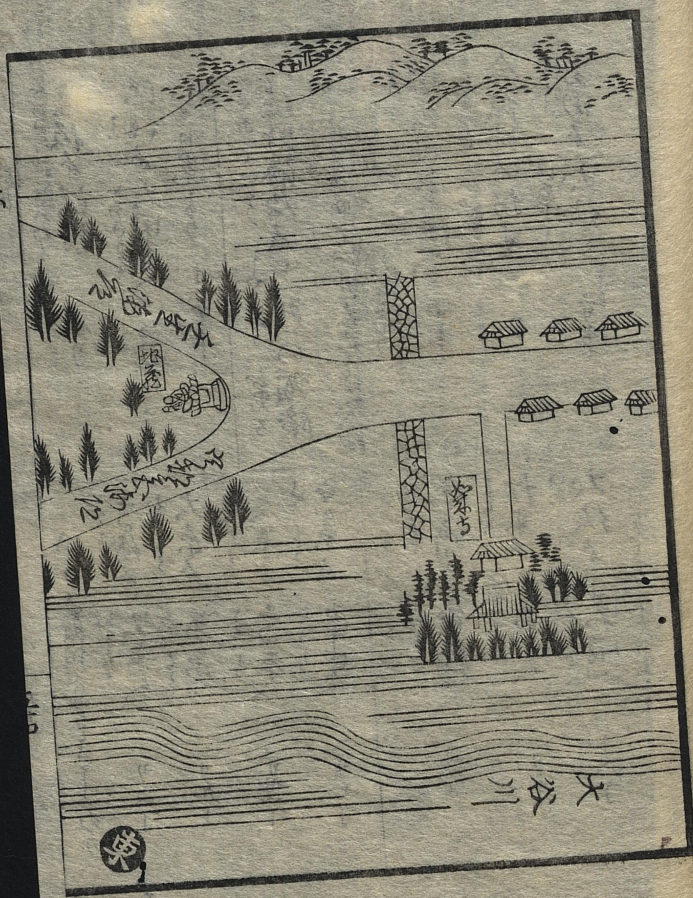
大田系より大田系一里

△金澤海道

五十里あり

大田系より大田系一里

大田系より大田系一里



矢板の沢村 一

沢村の大田系 一

日光より十二里半

佐野海老原と別(の)順路

拾木の所と別(の)順路あり

橋本金崎 一

合戦場大橋 一

富田大橋 一

比良川あり

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

大橋 一

△日光山坊舎并 就役僧気

一山学既

東照宮御別所

御霊屋御別所

新宮御別所

慈眼堂御別所

○衆徒中二十院并 諸大名宛宿坊附

南部侯邸 唯公院

井伊侯邸 外十二家

南照院 東山

修學院僧正

大樂院

龍光院

安親院

無量院

松平因幡寺 外十二家	安居院 東山	尾列様 外一家	日增院 東山
松平大隅寺 外十八家	遊城院 日	最上和泉寺 外二十二家	教城院 日
酒井統理寺 外五家	櫻木院 日	松平赤松寺 外十三家	禪智院 日
宗對馬寺 外八家	最上院 日	紀列様 外二家	護光院 松山
太田備中寺 外十一家	醫王院 日	松平伊予寺 外九家	花苑院 日
真田家 外五家	惠泉院 日	水戸様 外七家	難源院 日
松平加賀寺 外十二家	法門院 日	細川越中寺 外二十九家	淨土院 中山
松平陸奥寺 外十家	觀音院 中山	松平阿波寺 外二十四家	實教院 日

榊原遠江寺
外十一家
光樹院
中山
日向山御寺
松平寺
照高院
中山

○ 一坊八十字
● 東山谷

妙月坊	妙金坊	光鏡坊	日輝坊
本龍坊	恒義坊	光榮坊	城壽坊
鏡泉坊	秋本坊	大光坊	祐菊坊
永親坊	宣揚坊	能親坊	乃福坊

● 佛宏谷

正信坊

祇源坊

正定坊

妙力坊

龍泉坊

龍泉坊

妙日坊

通雲坊

● 南谷

勝泉坊

本月坊

城山坊

色取坊

老心坊

淨久坊

龍泉坊

林教坊

鏡蓮坊

龍泉坊

大月坊

色取坊

色取坊

老心坊

城不坊

色取坊

● 西山谷

不動坊

智親坊

櫻正坊

教親坊

正信坊

慶信坊

龍教坊

付光坊

● 長女寺谷

附註 長女寺の社なり故不

碩長坊

深妙坊

正龍坊

永南坊

香林坊

常福坊

龍蓮坊

龍泉坊

忍性坊

仲善坊

龍泉坊

古光坊

為善坊

城林坊

妙實坊

妙瑞坊



大嶋久兵衛藏板



